

こころせい

第50号

平成29年 8 月

発行 高知厚生病院
広報委員会

◆ 高知厚生病院の理念・基本方針 ◆

理 念

私たちは、安全かつ質の高い医療を提供し、皆さまに信頼される病院を目指します。

基本方針

1. 患者さまとご家族、更に地域の皆さまの幸せのための医療を実践します。
2. 患者さまの権利を尊重し、真摯かつ温かい態度で接し、心と心が通い合う医療を実践します。
3. 自己研鑽に努め、更に発展向上を目指します。
4. 地域の医療機関や施設と連携し、効率的な医療を目指します。
5. 地球環境に留意し、災害への備えを怠りません。

日野原重明先生のこと

院長 山口 龍彦



ご葬儀

去る7月18日の朝、105歳の現役医師として有名であった日野原先生がご自宅にて亡くなられたと報道があり、次週の土曜日である29日にご葬儀と発表されたので、私も感謝の気持ちを捧げるために東京都港区の青山葬儀所に行って聖路加国際病院の病院葬に参列させていただきました。葬儀には老いも若きも大勢の方が参加されていて、第1会場から第3会場まであり、第3会場は屋外のテントとなっていました。私は始まりの時刻の1時間10分前に到着してやっと何百人が入る第2会場の最後の方でした。後ほど、参列者は4千人と発表されていました。式の前には皇后さまがお越しくださって、ご親族に親しくお声をかけられたそうですが、第2会場の私はお見かけすることができませんでした。式典はキリスト教式で行われ、賛美歌あり、お祈りあり、素晴らしい説教あり、日野原先生ご自身の作詞作曲された「愛の歌」の独唱あり、福井院長等の心のこもった弔辞あり、そして式の最後は全員で「故郷」の合唱をするなどとても印象深いものでした。最後に、参列者全員が長蛇の列を作って4人ずつ順番に献花が許されました。祭壇には天皇皇后両陛下や皇太子同妃両殿下、また、各宮家からの花が並べられていました。その祭壇に私も一輪の白のカーネーションを捧げて感謝の思いをお伝えし、今後の天上界での天使としてのご活躍をお祈りしてまいりました。



日野原先生との出会い

思えば、日野原先生との直接的な出会いは1991年の11月ごろであったと思います。それまでに、日野原先生のご著書「延命の医学から生命を与えるケアへ」（1983年医学書院刊）「人生の四季に生きる」（1987

年岩波書店刊)「いのちの終末をどう生きるか」(1987年春秋社刊)「いのちの器～人生を自分らしく生きる～」(1989年主婦の友社刊)などの書籍を通して日野原先生の考え方に深く共感していた私は、日本にも本格的なホスピスが必要と考えるようになっていました。そこで、日野原先生にお手紙を書き、ご著書にもあったホスピスの見学旅行に連れて行ってくださるようお願い出たのです。

手紙を出して間も無いある日の夜遅く、「日野原です。」と直接電話がかかってきました。「来年の夏にボストンを中心にホスピスの見学旅行に行くから、一緒に来なさい。」という趣旨のお電話で、私は天にも昇る気持ちだったことを覚えています。

ホスピス見学旅行



この1992年夏の見学旅行のことは以前にも書きましたが、全米で最初に創立され、40床を超える大規模のコネチカットホスピスやボストン郊外にあるチルトンハウスという二家族用のアパートを改装した8人用の小さなホスピス、そして訪問看護と訪問診療の在宅ホスピスなどを次々と見学することができたのみならず、そこで行われている痛みや苦痛を取るための最新の技術を学ぶことができたのです。

世界内科学会の会長もされていた日野原先生のアメリカにおける待遇は別格で、特に米国のブランド病院であったベス・イスラエル病院のマンキン院長が日野原先生の長年のご友人ということもあって、朝から晩まで無駄な時間は全くない完璧なプログラムが組まれていたのです。

進んでいたアメリカの疼痛緩和の技術

1992年当時、アメリカの疼痛緩和の技術は、すでに現在の日本と同じレベルかそれ以上のものがありました。そういうことが言えるのは、フェンタニルパッチや、フェンタニルの舌下錠が25年前のアメリカにはすでにありましたが、この病院においては個人に合わせて調合したモルヒネ座薬が使用可能だったからです。持続皮下注射の機械も進んでいて、小型でかつPCAといって痛いときに患者がナースの助けを借りずに自分で一定量のモルヒネを追加できるタイプの機械が既にあったのです。日本がこれらに追いついたのはなんと20年あまり遅れてのつい最近のことで、モルヒネ座薬に至ってはまだ定量のものしか使うことはできません。



これらの疼痛や苦痛を緩和する技術を、米国の超一流のドクターから直接学ぶ機会を持てたことは、私が中四国で初めての緩和ケア病棟を開設するにあたっての大きな自信となったのです。単に施設を見学するだけの旅行であったなら、私も緩和ケアの方向に思い切って舵を切ることができなかったかもしれないと思います。

朝日俊彦先生との出会いも

また、この旅行は当時香川県立中央病院の泌尿器科部長をされておられた朝日俊彦先生とずっと同室でした。朝日先生は当時癌告知を全員に行っている数少ないドクターの一人でした。正しく癌告知をすることで、当時の一般の心配とは反対に、いかに患者が前向きに治療に取り組むことができるようになるか、明るい病棟になるかを教えてくださいました。朝日先生は、1992年秋に「笑って死ぬために」という最初のご著書を発刊され、その後もシリーズで7冊の著書があります。当院の緩和ケア病棟が最初から目標にしている「心穏やかに、満足して、感謝のうちに」という理念をくださったのは朝日先生です。

楽しかった思い出

かといって、この旅行の間中、勉強ばかりしていたわけでもありません。せっかくはるばるボストンまで来たのだからと、名物のザリガニ料理（オマール海老）も食べましたし、ケープコッドの避暑地でウィンドサーフィンやゴルフをして楽しみました。日野原先生は時間が惜しくて日本でゴルフはしないそうですが、チャレンジ精神は旺盛です。日野原先生は当時80歳10ヶ月でしたが、びっくりするぐらいボールを前に飛ばしてご機嫌でした。また、夜のケープコッドは空気が澄んでいることと周りに光がないために満天の星空で、天の川が天空の光の大河であることを体験できた貴重な時間でした。



日野原先生とのご旅行で私の人生も変わり、その後の高知厚生病院のあり様も変わりました。私が日野原先生のご存在を通して得たものはとても大きかったので、日野原先生には感謝してもしても感謝しきれない感じがいたします。

研修会

豊かないのち講演会報告

地域連携・緩和ケア支援室 相談員 竹中 莉恵

平成29年5月7日（日）かるぼーとで行われた第22回豊かないのち講演会へ参加させていただきました。午後の部の第1部では寺山心一翁先生のご講演があり、第2部は患者様と主治医による座談会が行われました。それぞれの立場から体験されたこと、体験を通しての心境の変化、環境の変化についてなど多様なお話しをおうかがいすることができました。今後こういった取り組みができるのか自分なりに考え、意識を高めるよい機会となりました。今回の講演会で学ばせていただいたことを活かせるよう今後の業務に努めていきたいと思っています。

「ふれあい看護体験実習生」を受け入れて

看護部長 岩本 泉

平成 29 年 7 月 28 日に毎年高知県看護協会が主催している「ふれあい看護体験」の実習生に来ていただきました。

実習に参加された方は 2 名の高校生でした。2 名とも将来看護師になりたいと語ってくれました。病院の役割や看護とは、生きること、死ぬことなどの説明にも熱心に聞き入っていました。

私たちも今一度原点を見つめなおし共に学習する良い機会となりました。

来年も継続していきたいと思います。



新入職員紹介



平井 誠 総務課

4 月より総務課で勤務しています平井 誠です。

今まで経験してきたことや初めてのことなど様々で大変ですが、色々と教えていただき楽しく仕事をさせてもらっています。また体を動かすことが好きで、数年前から県内外のマラソン大会に参加しています。この病院でもマラソンをする人がいるようなので、一緒に走れることを楽しみにしています。

入職して 4 ヶ月、高知厚生病院に入職したことも縁があつてのこと。迷惑をかけることもあるかと思いますが、これからもよろしくお願いします。



藤見 一則 居宅介護支援事業所こうせい ケアマネジャー

こんにちは H29 年 4 月から居宅介護支援事業所こうせいでお世話になっております藤見 一則です。

高知市で勤務するのが初めてであり今までとは勝手が違い、居宅介護支援事業所の 2 人から色々と教わりながら 4 ヶ月が経ちました。

当事業所は男性ばかり 3 人という他の居宅介護支援事業所には珍しい人員となっています。男性 3 人の事務所でこれから夏を迎えます。(笑) できるだけ爽やかに涼しく仕事をしたいと思っています。

この 4 ヶ月の間、利用者や利用者の家族、関係する事業所等には本当に助けられてやってこれたことに感謝をしています。ケアマネ業務に慣れ、地域に貢献できる様に頑張ります。宜しくお願い致します。



竹中 莉恵 相談員

4 月より相談員として勤務しております竹中莉恵と申します。

出身は高知市ですが、しばらく四万十町で生活していたこともあり、市内の情報に疎くなっています。食べることが好きなので、美味しいお店がありましたら是非教えてください。ご迷惑をおかけすることばかりだと思いますが、一日も早くみなさんのお力になれるよう頑張りたいと思います。ご指導よろしくお願いいたします。

～ 高知厚生病院健診センターの健診日が週3日に増えました。 ～

開設から週2日（月）（水）の健診スケジュールで行っていましたが、平成29年7月より（金）を追加して週3日での運用となりました。毎週（月）（水）（金）の午前が健診日となります。

1日の受入人数を4名としておりますので、待ち時間も少なく、少人数なのでゆったりとした健診をスピーディーに受診していただけます。

ご自身の健康を守り、大切な人の笑顔を守るため、「年に一度の生活習慣病予防健診・がん検診・特定健診」を受診いたしましょう。

そして健診の結果表に書かれた内容を理解して、必要があれば医療機関を受診することが必要です。結果表には、自分の身体からのいろいろなメッセージが書かれています。健診で再検査を勧められても「これぐらいは大丈夫、大したことはない」と思いがちですが、後で「そう言えば…」と思う事は少なくないものです。早期に理由をみつけて対策をとる事が重要です。

皆さまに健康に向き合って頂くことが高知厚生病院健診センターの役割であり願いです。



～ 住み慣れた地域で最期まで笑顔で暮らすために ～

平成29年4月22日（土）、『住み慣れた地域で最期まで笑顔で暮らすために』というテーマで、高知厚生病院・函南病院合同での地域公開講座を開催しました。

組織を越えて、医療機関同士が連携して地域公開講座を開催することは、珍しい試みとの事でしたので、メディアにも取り上げて頂きました。

参加者は、100名を超え、医師、看護師、社会福祉士、介護支援専門員など専門職以外に、緩和ケアを受けている患者様やそのご家族、その他一般の方の参加も多数ありました。

第一部では、当院の緩和ケア科部長、小栗啓義から『旅立ちのお手伝い』というテーマで、痛みや恐怖など全人的な苦痛への緩和方法の実際や、旅立たれる人の気持ちを投影するワークなどを行いました。

第二部では、函南病院の緩和ケア病棟師長、西村勇子から『緩和ケア病棟でのお看取りについて』というテーマで、緩和ケア病棟の雰囲気や催し物、アロママッサージなどの実際に行っている看護ケアについて、動画を用いてお話がありました。

第三部では、訪問看護ステーションこうせい、平山司樹から『住み慣れたお家で最期を迎えるということ』というテーマで、お家でお看取りをさせて頂いた療養者様とご家族の体験を写真や動画を用いてお話しました。

参加者からは、「緩和ケアの認識が変わりました」、「お家でも、穏やかに最期まで暮らせることを知りました」などの感想を多数いただき、緩和ケアや在宅看取りについての啓発につながったのではないかと思います。



院内行事

7月19日『わっはっは合笑団』

通所リハビリこうせい 介護福祉士 野村 誠

7月19日の合同レクは、「わっはっはっ合笑団（^ 0 ^）」の皆様をお招きして、童謡や懐かしのメロディーを参加者全員で楽しませて頂きました。最初は、見ていただだけの利用者さんでしたが、合唱団の皆様の温かい雰囲気の後押しされてか、一人、また一人と歌を口ずさみ始め、最後の「故郷」では、合唱団の皆様と一体となって、ホールいっぱいに大きな歌声が響いていました。元気に歌を歌われた後の参加者の嬉しそうな笑顔が、とても印象的でした。



8月9日 奇術クラブ

通所リハビリこうせい 介護福祉士 高橋真智子



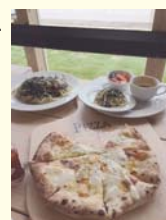
8月9日に奇術クラブの方々にお越しいただきました。昨年お越しいただいた時も皆様にとっても好評でした。近距離でマジックショーを観られる機会はめったになく、目の前で鳩が飛び出したりレコードの色が赤や、青、黄色と次々と変わっていく事に、「どうなっちゃうが!？」と驚き、手の中に入ったはずのハンカチーフが指を開くと消えていて、利用者様も私たちも一緒に驚いたりわくわくしながら楽しい時間を過ごすことが出来ました。

少し横から観られていた方が「ここからやったらマジックのネタが見えるかもしれん」と言われていましたが、さすが！そこはプロです。巧みな会話と技術で横からでも見えないようでした。又お越しくださるのを楽しみにしています。

編集後記

毎日、暑いですね。

先日新しく出来た道の駅なかとさへ行き、風工房でランチを食べてきました。写真はピザとちりめんじゃこパスタランチです。この後ケーキもいただいて、夏バテしても食欲はおちません！この夏もぼっちゃりで、乗り切りたいと思います。投稿お待ちしております！A・I



当院は
平成15年9月22日より
日本医療機能評価機構
認定病院となっております。



◆ 特定非営利法人
日本緩和医療学
会より認定研修
施設として認定
されました



◆ 厚生労働省より
医師の午後臨
床研修施設の
認定を受けまし
た



高知厚生病院

〒781-8121 高知市葛島1丁目9-50 Tel.088-882-6205 Fax.088-883-1655
ホームページ <http://www.kochi-koseihp.jp>